

「口をきけなくされた息子」

マルコの福音書 9:14~19

はじめに

イエシュアは、弟子のペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて高い山に登られ、そこで彼らの前に不思議なしるしを現されました。それは「変貌山の奇蹟」と呼ばれるもので、その山の上でイエシュアの御姿が突如変貌し、その衣はまぶしいほどに白く輝きだしました。そしてそこになんと旧約時代の預言者エリヤとモーセが現れ、さらに辺り一帯には不思議な雲がわき起こり、その雲の中から「これ（イエシュア）はわたしの愛する子。彼の言うことを聞け。」という天の父なる神の御声が響き渡ったという、にわかに信じられないような、驚くべき光景が、三人の弟子たちの目の前に展開されました。これらの奇蹟、不思議なしるしはすべて、神がこれからなそうとしておられるそのご計画を表したたとえ「ひな型、型」であると考えられ、それはすなわちイエシュアの空中再臨、教会の携挙と呼ばれる、世の終わりに起こるとされている神のご計画の一つを指し示しており、以下の預言の成就を表したものであると考えられます。

テサロニケ人への手紙 I 【新改訳 2017】

4:16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、

4:17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。

この預言とイエシュアの「変貌山の奇蹟」がどのように結びついているのかについては、以前詳しく述べました。やがてイエシュアはこの御言葉のとおり私たちに迎えに天から降りて来られます。そして「私たちは、いつまでも主とともにいることとなります」とありますが、神のご計画はそれで完了、すべて終わりというわけではないことが、今日の箇所であるマルコの福音書 9:14 からの記述、出来事には「型」として表されていると考えられます。それはつまり「9:14 さて、彼らがほかの弟子たちのところに戻ると…」と記されていることから、イエシュアの空中再臨によって携挙された人々、教会は、一旦は天に引き上げられますが、やがて再びイエシュアとともにこの地上に戻って来るとことが表されていると考えられます。すなわちこう預言されているとおりです。

ユダの手紙 【新改訳 2017】

1:14 アダムから七代目のエノクも、彼らについてこう預言しました。「見よ、主は何万もの聖徒を引き連れて来られる。」

このように、主イエシュアは天に携挙された「何万もの聖徒」たちを「引き連れて来られる」のです。これをイエシュアの地上再臨と言います。これがイエシュアの空中再臨、教会の携挙の、その後起こること、つまり地上再臨の前には携挙がある、起こること、つまり「変貌山の奇蹟」からこの「彼らがほかの弟子たちのところに戻る」という一連の流れ、その記述には表されていると考えられます。ですか

らこの記述から始まる今日の箇所には、イエシュアが地上再臨される時、どのようなことが起こるのかという神のご計画の「型、ひな型」が表されていると思われます。それはまずこのように記されています。

1. 論じ合う

【新改訳 2017】 マルコの福音書

9:14 さて、彼らがほかの弟子たちのところに戻ると、大勢の群衆がその弟子たちを囲んで、律法学者たちが彼らと論じ合っているのが見えた。

「変貌山の奇蹟」を現し、そこから戻って来られたイエシュア、そして三人の弟子たちは、人々が「論じ合っている」議論、討論している様子を見たことが記されています。一見したところ、それは決して穏やかな状況ではないように思えます。しかしここで「論じ合っている」と訳されている箇所のヘブル語はヤーハハ(נחנח)と言い、この言葉は本来、このような出来事、また意味で使われた言葉です。

創世記【新改訳 2017】

20:14 アビメレクは、羊の群れと牛の群れと、男女の奴隷たちを連れて来て、アブラハムに与え、またアブラハムの妻サラを彼に返した。

20:15 アビメレクは言った。「見なさい。私の領地があなたの前に広がっている。あなたの良いと思うところに住みなさい。」

20:16 サラに対しては、こう言った。「ここに、銀千枚をあなたの兄に与える。これはあなたにとって、また一緒にいるすべての人にとって、あなたを守るものとなるだろう。これであなたは、すべての人の前で正しいとされるだろう。」

これはゲラルの王アビメレクが、アブラハムとその妻サラに語った言葉です。アブラハムという人物が神のお選びになった預言者であることを知らされたアビメレクは、彼とその妻を祝福して贈り物をし、領地を与え、「あなたは、すべての人の前で正しいとされる」と宣言しました。ここに聖書で最初のヤーハハが使われており、この言葉は本来、アブラハムとサラすなわち彼の家、一族とその子孫、すなわちイスラエルの民を祝福し、この民が住むべき場所に住まい、守られ、すべての人、すべての国々の中であって正しい者、義なる民とされるという事実を指し示した言葉であると考えられます。この後アブラハムはこのアビメレクのために神に祈り、神はアビメレクの国を癒された、生かされたことが記されています。この出来事はかつて神がアブラハムとその子孫すなわちイスラエルの民に約束された、その契約を指し示す「型」と考えられ、それは以下のとおりです。

創世記【新改訳 2017】

12:1 【主】はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。

12:3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

ですから今日の箇所では「論じ合っている」と訳され用いられているヤーハハですが、本来は、アブラハムの子孫たちイスラエルの民によって「地のすべての部族」民族、全世界の国々の民が神に「祝福される」ようになる、地上はやがてそのような世界となる、という神のご計画が指し示された言葉であると考えられ、それがイエシュアが先に携挙された聖徒たちを引き連れて、やがて再び天からこの地に降りて来られる、イエシュアの地上再臨の出来事によって成就、実現するというのがこの「彼らがほかの弟子たちのところに戻ると、大勢の群衆がその弟子たちを囲んで、律法学者たちが彼らと論じ合っているのが見えた。」という出来事、記述には表されている、その「型」を見ることができると考えられます。

2. 驚き、駆け寄る

【新改訳 2017】 マルコの福音書

9:15 群衆はみな、すぐにイエスを見つけると非常に驚き、駆け寄って来てあいさつをした。

群衆はイエシュアを見て「非常に驚き…」とあります。人々はイエシュアの何をそんなに驚いたのでしょうか。ここに使われている「驚く」という意味のヘブル語はターマハ(תמה)と言い、この言葉は最初、以下のような出来事で使われました。

創世記【新改訳 2017】

43:31 やがて、彼は顔を洗って出て来た。そして自分を制して、「食事を出せ」と命じた。

43:33 彼らはヨセフの前で、年長者は年長の席に、年下の者は年下の席に座らされたので、一同は互いに驚き合った。

この出来事は、神の不思議な導きによりエジプトの宰相（王に次ぐ権力者）となったヨセフが、その兄弟たちを呼んで食事をさせるという場面です。彼の兄たちはそれがかつて自分たちが奴隷として売り飛ばしたはずの弟ヨセフであることを知らなかったため、エジプト人の宰相が 11 人もいる自分たち兄弟の年の順をすべて正確に把握していたことに「驚き合った」ということです。ここに聖書で最初のターマハが使われています。ちなみにこの後ヨセフは自分が彼らの兄弟であることを打ち明け、さらに驚かせることとなります。ヨセフを含むこの 12 人の兄弟は後にイスラエル民族を構成する全 12 部族の祖となっていきます。この様子、記された出来事には、やがてイスラエルの子らの中から、この時の大国エジプトの宰相のような、世界的権力、権威を持った者が現れ、その御前にイスラエルの全部族が集められ、従わされること、すなわち神の御子メシアであるイエシュアが世界を治める王の王、主の主として現れ、その御許、みそばに全イスラエルが集められ、仕えるようになるという神のご計画の成就が表されていると考えられ、それはこう預言されているとおりです。

エゼキエル書【新改訳 2017】

20:34 わたしは、力強い手と伸ばした腕、ほとぼしる憤りをもって、あなたがたを諸国の民の中から導き出し、その散らされている国々からあなたがたを集める。

このような預言の成就をまさに「驚き」恐れおののきながら仰ぎ見る、という意味がこのターマハという言葉には本来指し示されているのだと考えられ、それがイエシュアを見た群衆が「非常に驚き…」という出来事には「型」として表されていると考えられます。つまりイエシュアが地上再臨されるその時、すべてのイスラエルの民、すなわち神がお選びになったすべての人々がその御前に呼び集められる、という神のご計画が成就するということです。

またこの時イエシュアを見た群衆は、「**駆け寄って来て…**」ともありますが、ここに使われている「走る」という意味のヘブル語ルーツ(ץוּר)は本来、神を迎え、その御前にひれ伏し、仕えるために「走って行った」アブラハムの姿を指し示しており(創世記 18:2)、この時のイエシュアのみそばに群衆が「**駆け寄って来て…**」という様子にもまた、再臨されたイエシュアを王なるメシアとして迎え、仕える者となるイスラエルの民の「型」が表されていると考えられます。このように、イエシュアが地上再臨される目的は、イスラエルの王として立たれ、そのイスラエルの民を通して全世界を祝福するという仕組みを構築、建てるためであり、これが「神の国また御国」と呼ばれるものの、その具体的な現れであると考えられます。

3. 一人の息子

【新改訳 2017】マルコの福音書

9:16 イエスは彼らに、「あなたがたは弟子たちと何を論じているのですか」とお尋ねになった。
9:17 すると群衆の一人が答えた。「先生。口をきけなくする霊につかれた私の息子を、あなたのところに連れて来ました。
9:18 その霊が息子に取りつくと、ところかまわず倒します。息子は泡を吹き、歯ぎしりして、からだをこわばらせます。それであなたのお弟子たちに、霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、できませんでした。」

次にイエシュアはこの群衆に対し「何を論じているのですか」と問われ、人々がそのわけを答えている様子が描かれています。先ほどこの「論じている」という意味のヘブル語ヤーハハが、本来はアブラハムとその家が「**すべての人の前で正しいとされる**」という意味として使われた言葉であり、そしてその事実は、やがてアブラハムの子孫であるイスラエルの民によって地上のすべての部族、民族が神の祝福を受けるという世界が構築されるということ、イスラエルを中心とした世界を建てるのが神のご計画であることが指し示された言葉であり、イエシュアの地上再臨は、それを目的としたものであるということを示しました。ですからイエシュアのこの問いかけに対する群衆の答えとしての記述にも同様に、イスラエルの民についての神のご計画の何等かの「型」が表されていると考えられます。つまり、ここに取りざたされている一人の息子「**群衆の一人が答えた…口をきけなくする霊につかれた私の息子**」とは、イスラエルの民を指し示していると考えられます。ではこの息子の状態が、それとどのように結びつくのか見てまいりましょう。

まずこの息子は「**口をきけなくする霊**」につかれていたとありますが、ここにはイッレーム(רִימָה)というヘブル語が使われており、その意味はまさに「口のきけない、おしの」というものなのですが、実はこの言葉はもともとアラム(רִמָּה)「(束を)束ねる」という意味の言葉を語源としているのです。ですからこの息子には、やがてイエシュアはイスラエルの民を、畑に生えている麦を刈り取り、それを「束ねる」ように集められる、という神のご計画が暗示されていると考えられます。

次に「**その霊が息子に取りつくと、ところかまわず倒します。**」とあります。「**ところかまわず**」つまり霊は息子をどこでも、あらゆる場所で「**倒します。**」ということですが、ここには「押しつぶす、ぶつかる」という意味のラーツァツ(רָצַץ)が使われており、この言葉の最初の言及は以下の記述です。

創世記【新改訳 2017】

25:21 イサクは、自分の妻のために【主】に祈った。彼女が不妊の女だったからである。【主】は彼の祈りを聞き入れ、妻リベカは身ごもった。

25:22 子どもたちが彼女の腹の中で**ぶつかり合うようになった**ので、彼女は「こんなことでは、いったいどうなるのでしょうか、私は」と言った。そして、【主】のみこころを求めに出て行った。

25:23 すると【主】は彼女に言われた。「二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。一つの国民は、もう一つの国民より強く、兄が弟に仕える。」

25:24 月日が満ちて出産の時になった。すると見よ、双子が胎内にいた。

25:25 最初に出て来た子は、赤くて、全身毛衣のようであった。それで、彼らはその子を**エサウ**と名づけた。

25:26 その後で弟が出て来たが、その手はエサウのかかとをつかんでいた。それで、その子は**ヤコブ**と名づけられた。

アブラハムの子イサクの妻リベカは双子を身ごもり、「**子どもたちが彼女の腹の中でぶつかり合うようになった**」とあり、ここに聖書で最初のラーツァツが使われています。この双子の兄はエサウ、弟はヤコブ。神は「**兄が弟に仕える**」とされ、アブラハム、イサクと交わされた契約をこのヤコブに受け継がせました(創世記 28:13~14)。そして後に神は彼の名をイスラエルとされ、イスラエルの民の父祖とされました。ですからラーツァツという言葉には本来、ヤコブすなわちイスラエルの民が、神によって選り分けられた民、聖別された神の民であることを指し示す意味があると考えられます。つまり「**ところかまわず倒**」されるというこの一人の息子の中に、イスラエルの民に対する神の選り分けが、地上のあらゆる場所において、全世界において認められ、この民が他のすべての国々よりも強く大きな国、国民となることが表されていると考えられます。

またこの息子は、「**泡を吹き、歯ぎしりして、からだをこわばらせ**」ることも記されていますが、これらの様子は、イスラエルの民の歩み、歴史を表していると考えられます。なぜなら「**泡を吹き…**」はリール(רִיר)と言い、本来は「汚れ」を意味する言葉で(レビ記 15:3)、また「**歯ぎしりして…**」これはハーラク(קָרַק)と言い、本来は「神の怒り」を表す言葉です(ヨブ記 16:9)。そして「**(からだを)こわばらせ**」はヤーヴェーシュ(טָבַח)と言い、本来は「乾く」と訳された言葉で、最初の言及は以下の記述です。

創世記【新改訳 2017】

8:7 鳥を放った。すると鳥は、水が地の上から乾くまで、出たり戻ったりした。

これはノアの箱舟の物語の一節ですが、ノアは大洪水で覆われた地上から、水が引いて「乾く」こと、つまり大洪水による神の裁きが終わったかどうかを調べようとして鳥を放ちました。すると鳥は舟から「出たり戻ったりした」とあります。これらの言葉の持つ意味をすべて組み合わせると、イスラエルについての次のような歩みと結びつけることができます。それはすなわち、**イスラエルの民は神の選びの民でしたが、その神の教えを捨て、数々の偶像礼拝の罪を犯し、神の目に「汚れた」者となりました。そして神は彼らに対してお「怒り」になり、ついには彼らを彼らの土地から追い「出され」ました。しかし神は世の終わりの日に再びこの民をイスラエルの地にお「戻し」になる、**というものです。このように、一人の息子が「泡を吹き、歯ざしりして、からだをこわばらせ」る姿の中に、イスラエルの歩み、歴史、そして後に成就する神のイスラエルに対するご計画が「型」として表されていると考えることができます。

そしてイスラエルにおけるこれらの出来事、歩みとその歴史、そしてやがて成就される神のご計画のすべては、人の力や働きによって成されるものではなく、ただイエシュアによってのみ完成、完了されます。それが次の「あなたのお弟子たちに、**霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、できませんでした。**」という出来事の中に表されたメッセージであると考えられます。

4. いつまで

【新改訳 2017】 マルコの福音書

9:19 イエスは彼らに言われた。「ああ、不信仰な時代だ。いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいなければならないのか。いつまで、あなたがたに我慢しなければならないのか。その子をわたしのところに連れて来なさい。」

「いつまで～か。いつまで～か。」二度繰り返して強調されているこの表現はアド マタイ(עֲדַמַּיִת)と言いますが、この表現が聖書で最初に使われている箇所を見ますと、この一人の息子がイスラエルの民を表していることが更によく理解できます。

出エジプト記【新改訳 2017】

10:3 モーセとアロンはファラオのところに行き、彼に向かって言った。「ヘブル人の神、【主】はこう言われます。『いつまで、わたしの前に身を低くするのを拒むのか。わたしの民を去らせ、彼らがわたしに仕えるようにせよ。』

これはヘブル人すなわちイスラエル人をエジプトの奴隷状態から解放するために、モーセとアロンをとおして語られた神の御言葉です。「いつまで、わたしの前に身を低くするのを拒むのか」ここに聖書で最初のアド マタイという表現が使われています。そしてこの御言葉の結論、神のご命令は、イスラエルの民が「わたしに仕えるようにせよ。」です。一方イエシュアの「いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいなければならないのか。」また「いつまで、あなたがたに我慢しなければならないのか。」というこれ

らの御言葉の結論、ご命令は「その子をわたしのところに連れて来なさい。」となっており、イスラエルの民と「その子」一人の息子の存在が見事に重なります。

このように、イエシュアが聖徒たち、すなわち先に携挙された者たちを連れて地上再臨されるその時、地上にいるイスラエルの民、ヘブル人、ユダヤ人とも呼ばれる彼らの上に、一体どのようなことが起こるのかという神のご計画が、今日の箇所に記載されたすべての出来事、様子、描写の中に「型」として表されていると考えられます。それはまとめると以下のようなものです。

- ①イエシュアの地上再臨の前に空中再臨、教会の携挙が起こる。
- ②地上再臨されたイエシュアのみもとに、すべてのイスラエルの民、ユダヤ人が集められる。
- ③イスラエルの民は神の教えに背き、神は怒られるが、決してお見捨てにはならない。
- ④イスラエルが地上で最も大きな国家となり、イスラエルによって全世界が統治、統括されるようになる。
- ⑤イスラエルの王は地上に再臨されるメシア、イエシュアである。

5. 神の宝

今日の箇所からいくつものイスラエルに対する神のご計画を見ることができました。それはつまり神がいかにかこのイスラエルを重視しておられるか、尊んでおられるかということの現れです。ところでみなさんには何か宝物、お気に入りとして、大切にしている物がありますか？もしある時あなたの家族や友人がやって来て、そのあなたの宝物をバカにして笑ったり、悪口を言ったとしたら、あなたはきっと悲しくなったり、あるいは怒ったりするでしょう。でも逆にあなたがそれを気に入り、大切にしていることに同意し、賛成し、「それいいね、ステキだね。」と言って興味を持ってくれたら、あなたはきっとそれを喜び、嬉しいと思うはずです。そんな私たちと同じように、神にも宝があります。神はイスラエルの民に対してこうっておられます。

申命記【新改訳 2017】

7:6 あなたは、あなたの神、【主】の聖なる民だからである。あなたの神、【主】は地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自分の**宝の民**とされた。

14:2 あなたは、あなたの神、【主】の聖なる民だからである。【主】は地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自分の**宝の民**とされた。

26:18 今日、【主】は、あなたに約束したとおり、あなたが主のすべての命令を守り主の**宝の民**となること…。

このように、神は聖書の中でイスラエルをご自分の「**宝**」と呼んでおられます。あなたはこの事実についてどう思われますか。「私はイスラエルに行ったこともないし、イスラエル人を見たこともないからわからない。」と言いますか？「そもそも自分の生活、人生にあまり関係がない。」と言って無関心になりますか？もしそうだとしたら、神はあなたのその態度をどう思われるのでしょうか。私はなにも今すぐイスラエルに行って、ユダヤ人の友達を作れと言っているわけではありません。ただ聖書に記載された、神が約束されたイスラエルに対するご計画について、もっと目を向けてほしい、もっと興味を持ってほしい、まだよく

分からないにしても、せめてそのご計画が成就することを願ってほしい、祈り求めてほしいのです。神が聖書という名の You Tube にアップした、イスラエルチャンネルの高評価ボタンを押し、チャンネル登録し、「私もイスラエル大好き！イスラエルのために祈ります！」とコメント欄に書いてほしいのです(笑)。

神はなぜイスラエルの民を、こんなにも大切に思われるのでしょうか。それはこの民が、どの国の民よりも心を合わせてイスラエルの祝福を祈り、この国の繁栄を願うからです。それは彼らにとって自分たちの国のことなのだからあたりまえ、当然だと思うかもしれませんが。しかし幸いにも彼らのこの願い、この祈りは、神のご計画に心を合わせる、まさに御心になかった祈りなのです。そしてその祈りと願いは、親から子へ、子からまたその子へと絶えることなく、何千年も受け継がれてきているのです。このような祈りを、民族をあげてささげ続けるこの民を、神が目をとめられない、祝福されないわけがありません。

確かに私たちは、血統としてはイスラエル人ではありませんし、日本から見てイスラエルは遠い異国の地です。しかし聖書によれば、私たちの神は確かにイスラエルの神と呼ばれる御方なのです。ですから私たちもこのイスラエルを思い、これに目をとめることで神の御心に寄り添い、神に喜んでいただくではありませんか。そしてイスラエルのゆえに、イスラエルによって神の祝福に与る民として歩もうではありませんか。どうか私たちの目が、心と思いが、私たちの神の「宝」であるこのイスラエルに、ますます注がれますように。聖霊の助けを求めて祈りましょう。

Ⅱ 歴代誌【新改訳 2017】

16:9 【主】はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心をご自分と全く一つになっている人々に御力を現してくださいるのです。